

肝機能不良例肝細胞癌における腹腔鏡下肝切除術の有用性の検討

1. 研究の対象

2009年10月から2015年5月までに国立がん研究センター東病院肝胆膵外科で肝細胞がんの手術が行われた患者さんのうち肝機能が不良であった50人の方々を対象とします。

2. 研究の概要

肝細胞がんにおける根治的治療として、従来から広く肝切除術が行われてきました。近年では胃がん、大腸がんの領域で腹腔鏡手術がその利点から注目を浴びていますが、肝臓がんに関しても病期を選択すれば安全に腹腔鏡手術が行われています。一方で、肝細胞がんの多くは肝硬変を背景として発症するために、肝機能因子とのバランスを考慮して治療をしなければなりません。本研究では肝機能が不良な患者さんにおいて、腹腔鏡下肝切除術の安全性と有用性を詳しく検討します。

3. 研究の意義と目的

肝細胞がんにおける根治的治療として、現在は手術療法（肝切除術もしくは肝移植）がメインとなっています。しかし、肝移植に関してはドナー不足や費用の点など負担が大きく、肝切除術が治療戦略の主力として役割を担っています。近年では、肝切除に使用するエネルギーデバイスの進歩に伴い、腹腔鏡手術が普及してきています。しかし、肝機能が保たれていない患者さんにおける腹腔鏡手術の安全性と有用性における研究はこれまでに少ないのが現状です。本研究では、これらに影響する要件を見出し、患者さん一人ひとりにより良い治療を行うための情報を明らかにすることを目指します。この結果は、今後、肝細胞がんの治療を受ける多くの患者さんに役に立つ情報であると考えています。

4. 方法

2009年10月から2015年5月までに国立がん研究センター東病院肝胆膵外科で、肝細胞がんに対して手術が行われた患者さんの周術期に関する因子を再度検討します。同患者さんの診療録から必要な情報を収集し、検証します。収集したデータは国立がん研究センター東病院肝胆膵外科の下で、期限を定めずに国立がん研究センター内に厳重に保管します。

5. 個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療録等には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない

やり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、研究登録時に発行される登録番号、生年月日、カルテ番号を使って管理するため、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。また患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますのでいつでも下記まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 工藤雅史/後藤田直人

TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724